

## 第2回採用力検定の概要

2020年7月15日

一般社団法人日本採用力検定協会

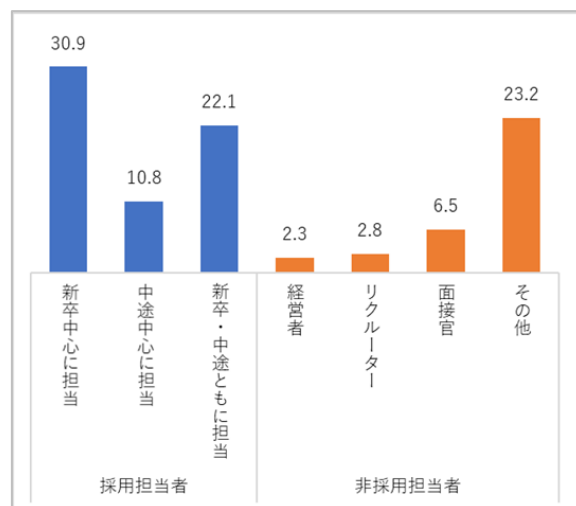
このたび日本採用力検定協会では第2回採用力検定を実施しました。本資料では、第2回採用力検定について、どのような人が受験したか、正答率はどの程度であったか、難易度や事前学習は行っていたかといった観点で受験結果を整理しています。

### 1. 受験者の内訳

初めに、第2回採用力検定の受験者に関する特徴を紹介します。

#### ◆採用との関わり方

現在の採用業務への関わり方については、採用担当者の受験が全体の半数以上を占めていました。とりわけ、新卒採用を中心に担当する方が相対的に多くみられました。一方、採用担当者ではない方も、あわせて3割ほど受験しています。



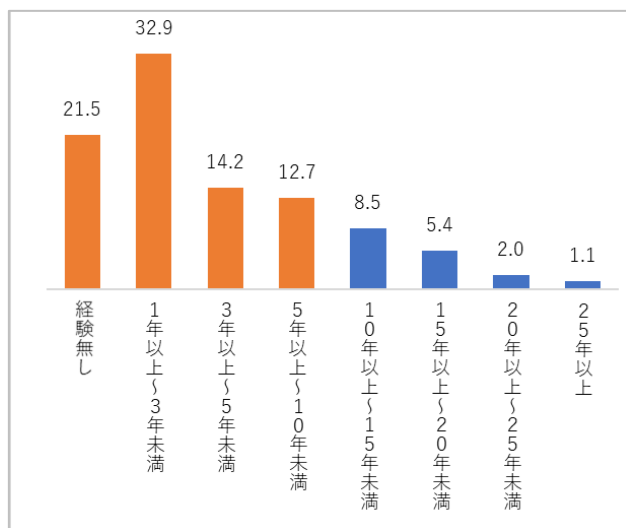
質問2（現在、「採用」にどのように関わっていますか）の回答分布（単位：％）<sup>12</sup>

<sup>1</sup> 実際の選択肢はグラフ左から順に「採用担当者で、新卒中心に担当」「採用担当者で、中途中心に担当」「採用担当者で、新卒・中途ともに担当」「採用担当者ではなく、経営者」「採用担当者ではなく、リクルーター」「採用担当者ではなく、面接官」「採用担当者ではなく、その他」。

<sup>2</sup> 欠損値（1.4％）は除外しているため、合計は100％にならない。

◆人事の経験年数

採用を含む人事労務経験年数については、10年未満の受験者が約6割を占めていました。特に「1年以上3年未満」の受験者が多く、業務が一まわりした後に受験している様子が見がえられます。人事の経験がない方も2割弱、受験していました。



質問3（採用を含む、人事労務経験年数は何年ですか）の回答分布（単位：%）<sup>3</sup>

## 2. 正答率

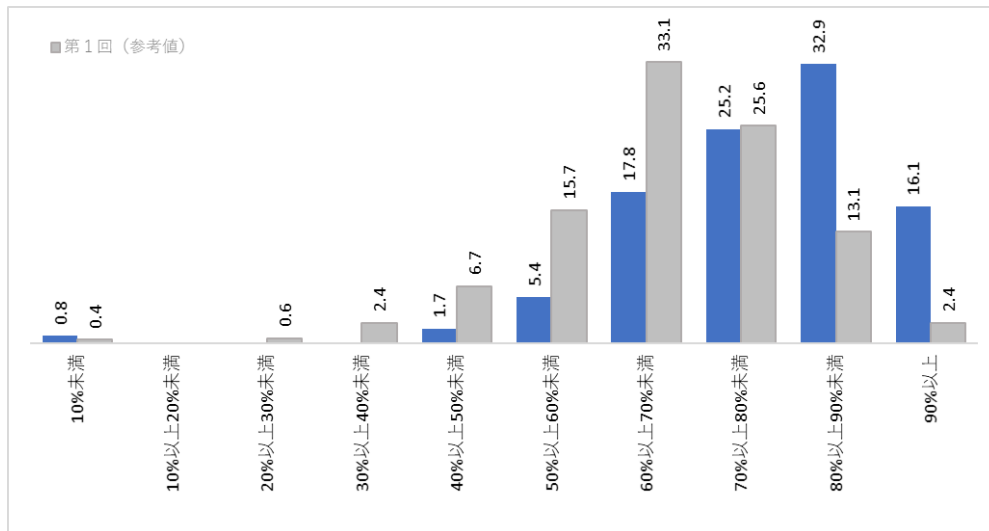
続いて、第2回採用力検定における正答率について紹介します。

◆正答率の平均

第2回採用力検定の受験者全体の正答率は「76.5%」でした。第1回よりも9.6ポイント上昇しています（第1回は66.9%）。80%以上正答した受験者数も大幅に増えています（第1回は15.5%）。

---

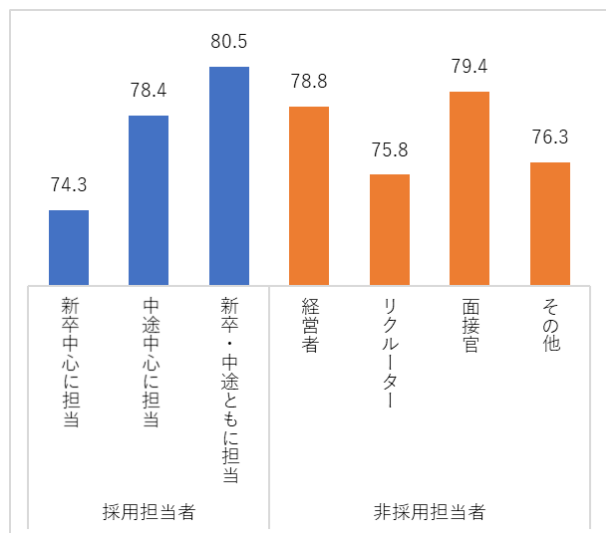
<sup>3</sup> 欠損値（1.7%）は除外しているため、合計は100%にならない。



正答率の分布 (単位：%)

◆採用との関わり方と正答率

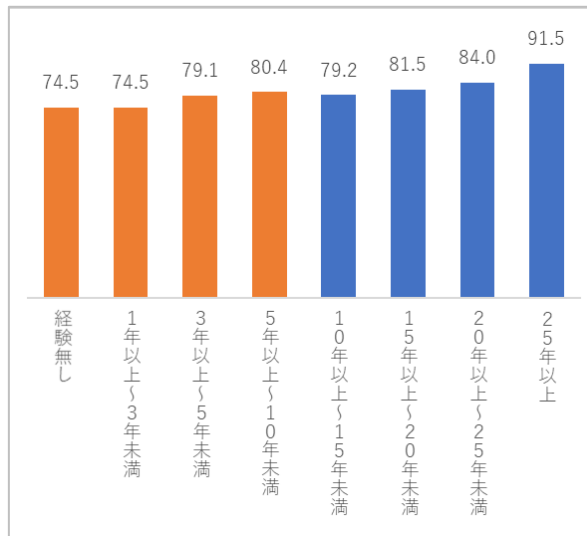
採用担当者の中では、新卒と中途の両方を担当している人、中途中心に担当している人の正答率が高く、採用担当者以外では、面接官、経営者の得点が高い傾向にありました。



正答率×採用との関わり方 (単位：%)

◆人事の経験年数と正答率

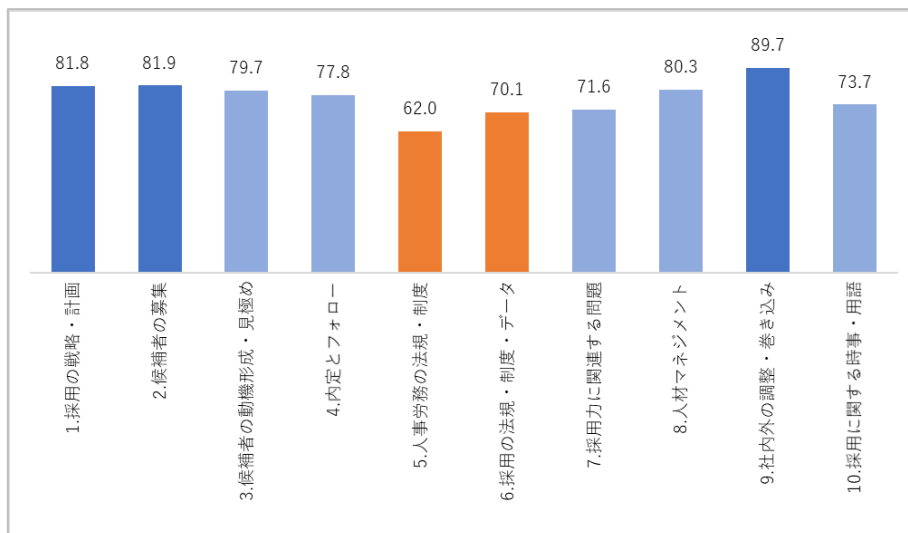
人事の経験年数による差はそこまで大きくありませんでしたが、基本的には経験年数に応じて採用に関する知識は増加傾向にあります。15年以上になると正答率の平均が8割を超え、25年以上の人事経験者は、正答率の平均値が9割を超えていました。



正答率×人事の経験年数（単位：％）

◆領域ごとの平均値

相対的に正答率の高い領域は、社内外の調整・巻き込み、採用戦略、候補者の募集などでした。逆に正答率の低い領域は、人事労務や採用に関する法規・制度でした。選考プロセスに関する知識は充実している一方、人事労務全般の理解には課題があると言えます。



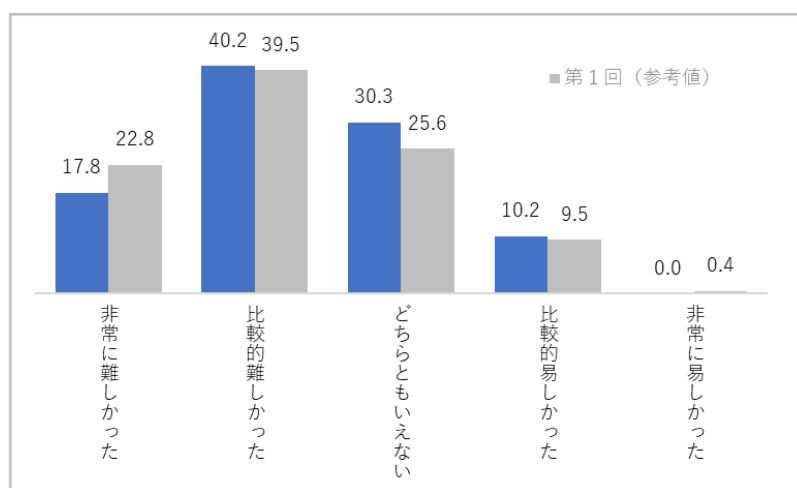
正答率×回答領域（単位：％）

### 3. 難易度と事前学習

最後に、第2回採用力検定の受験者による主観的な難易度、及び、検定に先立つ学習状況について紹介します。

#### ◆主観的な難易度

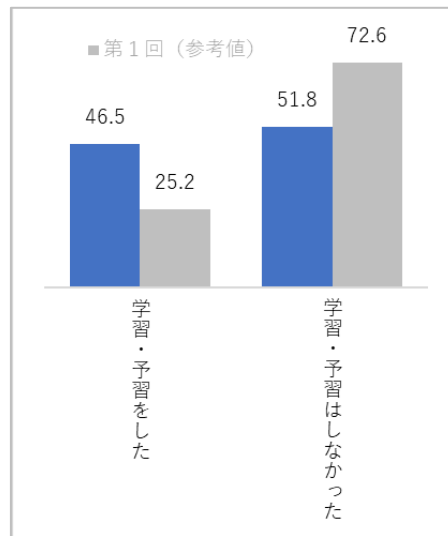
第2回採用力検定の難易度については、比較的難しかったと感じる受験者が最も多い結果になりました。第1回同様、易しいと感じる受験者は1割程度にとどまっており（第1回は9.5%）、一定の難易度が担保されていると考えられます。



質問4（採用力検定試験を受験してみて、難易度はどう感じましたか）の回答分布  
（単位：%）

#### ◆事前学習の有無

第2回採用力検定の前に予習を行った人は46%で、前回よりも増加しました（第1回は25.2%）。このことが全体の正答率を押し上げた要因の一つであると考えられます。



質問5（採用力検定試験受験に際し、学習・予習（参考図書を読む等）をしましたか）の回答分布（単位：％）<sup>4</sup>

以上

---

<sup>4</sup> 欠損値（1.7％）は除外しているため、合計は100％にならない。